

▶ 11日 木曜

マルコ

4:30 またイエスは言われた。「神の国はどのようにたとえたらよいでしょうか。どんなとえで説明できるでしょうか。」

4:31 それはからし種のようなものです。地に蒔かれるときは、地の上のどんな種よりも小さいのですが、

4:32 蒔かれると、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張って、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになります。」

4:33 イエスは、このような多くのたとえをもって、彼らの聞く力に応じてみことばを話された。

4:34 たとえを使わずに話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちには、彼らだけがいるときに、すべてのことを解き明かされた。

4:35 さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに「向こう岸へ渡ろう」と言われた。

4:36 そこで弟子たちは群衆を後に残して、イエスを舟に乗せたままお連れした。ほかの舟も一緒に行った。

4:37 すると、激しい突風が起こって波が舟の中にまで入り、舟は水でいっぱいになった。

4:38 ところがイエスは、船尾で枕をして眠つておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生。私たちが死んでも、かまわないですか」と言った。

4:39 イエスは起き上がって風を叱りつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、すっかり凪になった。

4:40 イエスは彼らに言われた。「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」

4:41 彼らは非常に恐れて、互いに言った。



Bible Reference
聖書の記述

「風や湖までが言うことを聞くとは、いつたいこの方はどなたなのだろうか。」

「神の国」とは神の支配です。私たちは祈ることによって神の支配を求めみわざを期待します。それは信仰の表れです。ですから信仰とは大きいか小さいかではなく、あるかないかなのです。自分の信仰の大きさ（純粹さや立派さや強さなど）を誇ることは無意味です。また信仰の小ささ（弱さなど）で卑屈になる必要もありません。信仰があれば良いのです。信仰があるならそのように行動しましょう。

嵐の海のような恐れがあっても、主は信仰のある者ともにいてくださるので、嵐は止むのです。信仰を持っていることを自覚して、そこに主の力が働くことを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

